

2024年度 主要私立大志願状況（2月16日現在集計）

河合塾

2024/02/22

私立大一般選抜では1期（2月）入試が終盤を迎え、2期（3月）入試の出願がスタートしている。ここでは主要大の1期（2月）入試の志願者集計（2月16日現在）から、今春入試を分析する。

全体概況

新課程入試を前年に、手厚く出願校を検討する動き

＜図表1＞は、現時点で志願者数が判明した全国92大学の一般選抜の状況をまとめたものである。今春の志願者数は、前年比102%となった。18歳人口の減少率は前年比97%となっているため、受験生が積極的に私立大に出願したといえるだろう。近年、人口減や入試の競争緩和の影響で私立大の志願者数は減少基調だった。しかし翌年に新課程入試が控えており、浪人を回避したい受験生が例年より出願校数を増やしたことで志願者が増加したものとみる。とはいえ、18歳人口が減少するなか、大学志願者数は減少しているものと推測され、大学側が入学者確保のため合格者数を増やすことが見込まれる。入試の競争緩和は今春も継続するといえるだろう。

方式別にみると一般方式の志願者数は前年比100%と前年並みにとどまった一方、共通テスト方式では同104%と増加した。大学入学共通テスト（以下、共通テスト）受験者のうち、3科目以下の少数科目受験者は前年比93%と私立大専願者の共通テスト離れがすすむ。そのようななか、共通テスト方式で志願者が増加したのは、国公立大志望者が併願先として挙がることの多い難関大・有名大などを中心に手厚く共通テスト方式に出願したことがうかがえる。なお、私立大の共通テスト方式には出願締切日が共通テスト本試験前に設定される「事前出願」の方式と本試験後に設定される「事後出願」の方式があるが、今春入試では両方式で極端な差はみられなかった。

グループ大の志願者は堅調も、女子大の不人気は続く

大学グループ別に志願状況を見ると、首都圏では「首都圏女子大学」など一部を除き、堅調に志願者を集めた。「早慶上理」グループでは共通テスト方式で前年比108%と志願者の増加が目立つが、これは上智大の共通テスト方式の志願者が大幅に増加したことが要因である。とはいえ、東京理科大や早稲田大でも大学全体でみれば共通テスト方式の志願者数も増加しており、国公立大志望者が併願先として多く出願したものとみる。「MARCH」グループの志願者数は概ね前年並みであり、一般・共通テストの方式間の差はあまりみられない。なお、法政大は2年ぶりに、明治大では3年連続で志願者数が10万人を超えた。「成成明國武」グループの志願者数は前年比108%と大きく増加した。成蹊大、成城大、武蔵大では志願者数が1割以上増加しており、人気を集めていることがわかる。なお、今春、初の理系学部を新設した明治学院大では、前年度入試の反動もあり志願者数は前年並みにとどまった。「日東駒専」グループでは、前年比99%と減少したが、日本大を除く3大学は志願者数が増加、とくに東洋大の志願者数は前年から2割近く増加した。同大は今春、学科再編やキャンパス移転などをしており、人気につながったとみる。一方、「首都圏女子大学」グループの志願者数は前年比95%と志願者の減少が続いており、学部を新設する日本女子大も志願者は1割以上減少した。

近畿圏をみると、「関関同立」グループの志願者数は前年比104%と、志願者の増加が続いている。今春も関西大を除く3大学で志願者が増加しており、とくに関西学院大で大幅に志願者が増加した。なお、共通テスト方式の増加率が高まっていることから、「早慶上理」同様、国公立大志望者が多く集まったとみる。「産近甲龍」グループでは志願者数の多い龍谷大や近畿大の志願者は前年並みだったものの、京都産業大が志願者を大きく減らしたことでグループ全体の志願者数が前年比97%と減少した。なお、近畿大では、今春も13万人を超える志願者を集めており、11年連続で一般選抜の志願者数が日本一となった。

＜図表1＞私立大 主要大学グループ別志願状況

学校区分		一般方式			共通テスト方式			合計		
		23年度	24年度	前年比	23年度	24年度	前年比	23年度	24年度	前年比
主要92大学 計		1,460,107	1,466,302	100%	743,998	771,986	104%	2,204,105	2,238,288	102%
主な内訳	早慶上理	150,702	149,782	99%	53,568	57,828	108%	204,270	207,610	102%
	MARCH	253,289	255,252	101%	122,194	124,212	102%	375,483	379,464	101%
	成成明國武	60,307	65,769	109%	28,460	30,512	107%	88,767	96,281	108%
	日東駒専	149,159	145,062	97%	83,379	84,978	102%	232,538	230,040	99%
	首都圏理系大学	116,000	117,146	101%	119,466	121,458	102%	235,466	238,604	101%
	首都圏女子大学	25,903	24,952	96%	17,463	16,331	94%	43,366	41,283	95%
	関関同立	176,571	180,446	102%	75,125	80,407	107%	251,696	260,853	104%
	産近甲龍	172,817	167,912	97%	70,990	68,489	96%	243,807	236,401	97%
	上記以外の主要大学	355,359	359,981	101%	173,353	187,771	108%	528,712	547,752	104%

※数値は2/16現在、出願期間中の方式および志願者数未公表の方式は集計対象外

(大学グループ)

早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科

MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政

成成明國武：成蹊・成城・明治学院・國學院・武蔵

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修

首都圏理系大学：千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京電機・東京都市・東京農業

首都圏女子大学：大妻女子・学習院女子・共立女子・実践女子・昭和女子・津田塾・東京家政・東京女子・日本女子

関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館

産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

「人文学系」で人気回復、理系は「医」が高い人気

＜図表2＞は、学部系統別の志願動向である。赤の棒グラフが私立大全体の志願者前年比、棒グラフの濃い青色は学部系統を、その右側の薄い青色は各系統内の分野を表している。

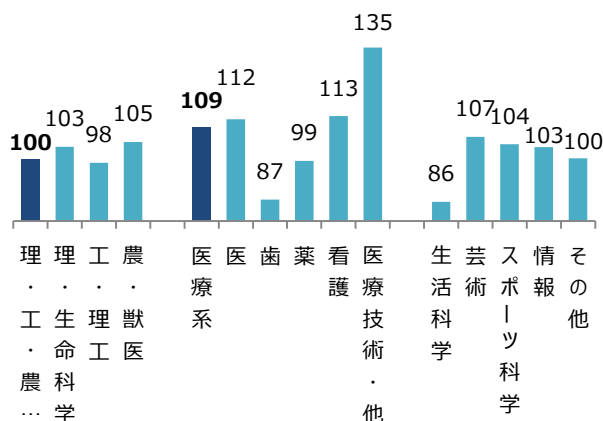
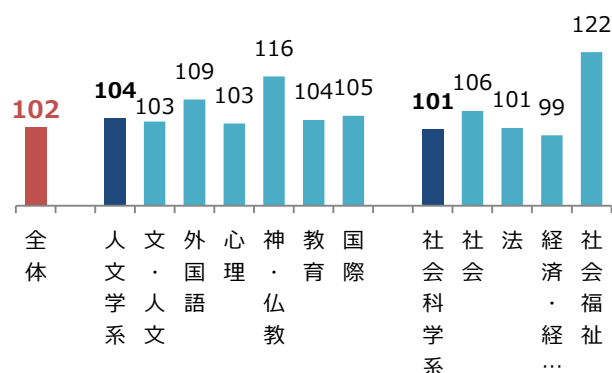
私立大全体の志願者数前年比102%を基準にみていくと、不人気が続いていた「人文学系」の志願者数は同104%と増加に転じた。「社会科学系」の志願者数は前年並みにとどまった。分野ごとにみると、志願者数の多い「経済・経営・商」分野が前年比99%と人気伸びていない。中央大（経済）、日本大（経済）、近畿大（経済）などで志願者が減少した。一方で「社会」分野は前年比106%と集まった。

「理・工・農学系」に目を向けると、「工・理工」では志願者がやや減少した一方、「農・獣医」では増加した。なお、河合塾で実施した模擬試験でも1年を通して同様の傾向となっていた。

「医療系」では、難関の「医」で志願者が1割以上増加した。現在判明している17大学のうち、14大学が志願者増となっており、人気系統といえるだろう。とくに産業医科大（医）では今春、一般方式を新規実施したことで志願者が大幅に増加した。

そのほか、「生活科学」の志願者数が前年比86%と大きく減少した。「生活科学」の志願者の多くは女子が占めており、前年に続き女子の学部選択が多様化していることが要因とみる。また今春も、学部・学科の新設が相次ぐ「情報」の志願者数は前年比103%にとどまる。

＜図表2＞ 私立大 学部系統別の志願動向（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)

※数値は2/16現在、出願期間中の方式および志願者数未公表の方式は集計対象外

各地区主要大学の志願状況

次に全国の主要大学の志願状況（判明分）を確認する。以下、首都圏と近畿圏の13大学の状況について確認する。

なお、＜図表3＞＜図表4＞＜図表5＞はいずれも13大学の学部別の志願状況（2月16日までの判明分）の集計である。また、最終頁には参考として主要私立大の大学別志願状況（抜粋）を掲載しているほか、河合塾の入試情報サイト「Kei-Net」では13大学含めた最新の私立大の志願状況を掲載している。下記URLからご覧いただけるので、そちらもぜひご利用いただきたい。

<https://www.keinet.ne.jp/exam/future/>

早慶上理の志願状況

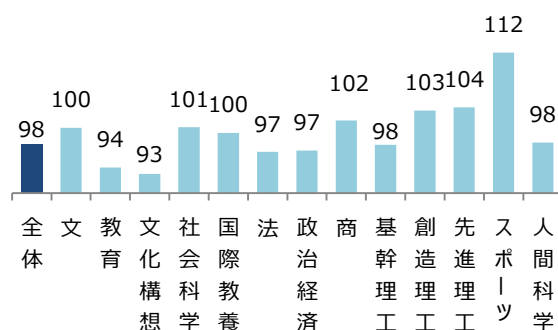
①早稲田大

大学全体の志願者数は89,420人（前年比98%）とやや減少した。方式別では一般方式で前年比98%、共通テスト方式で同102%と共通テスト方式で志願者がやや増加した。

学部別にみると、教育学部（前年比94%）、文化構想学部（同93%）などで志願者の減少が目立った。教育学部では一般方式（A・B方式）では減少したものの、導入して2年目となる共通テスト方式（C・D方式）では志願者が増加した。法学部、政治経済学部でも全体の志願者は減少したものの、法学部では共通テスト方式で1割以上志願者が増加、政治経済学部では共通テストのみ利用する方式で概ね前年並みを維持した。いずれの方式も共通テストの科目が6科目以上必要であり、国公立大併願者が多く集まったものとみる。

志願者が増加した学部をみると、スポーツ科学部では前年比112%と大きく増加した。募集人員の多い小論文方式では共通テストの利用科目が英語必須の2教科であり、選択科目は数学・国語である。今年の共通テストは国語の平均点が大幅にアップした影響で受験生が出願しやすかったと推測される。理工3学部では創造理工、先進理工の2学部で志願者が増加した。前年度入試で人気を集め、実質倍率が3学部の中で最も高くなった基幹理工学部が避けられる形となった。

＜図表3－①＞ 早稲田大 学部別志願状況（前年比）

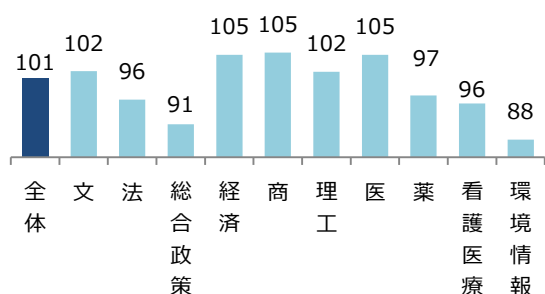


※数値は志願者前年比 (%)

②慶應義塾大

大学全体の志願者数は37,600人（前年比101%）と概ね前年並みの志願者を集めた。学部別にみると、5学部で志願者が増加した。理工学部（前年比102%）や医学部（同105%）では3年連続で志願者が増加、志願者の減少が続いた文学部（同102%）なども増加に転じた。経済学部（前年比105%）や商学部（同105%）も志願者が増加したが、方式別にみると、数学を課すA方式の志願者は2学部とも1割近く増加したものの、英語・地歴・小論文を課すB方式はそれぞれ志願者が減少しており、方式間で動向に差が出た。一方、志願者が減少した学部を目を向けると、SFCにある総合政策学部、環境情報学部で志願者減が続いている。環境情報学部では5年連続、総合政策学部では7年連続で志願者が減少しており、未だ志願者の回復の兆しはみえない。

＜図表3-②＞ 慶應義塾大 学部別志願状況（前年比）



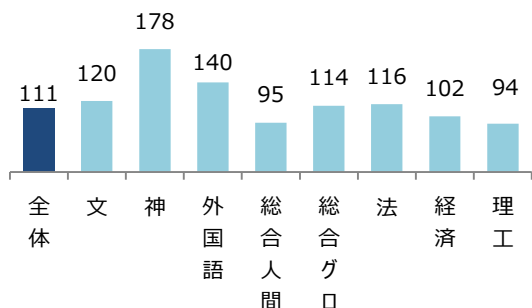
※数値は志願者前年比 (%)

③上智大

大学全体の志願者数は29,569人（前年比111%）と前年に続き、大きく増加した。前年度入試では志願者のほかに合格者数も3割近く増加、倍率はダウンしていた。狙い目とみた受験生が多く出願したものとする。方式別にみると、一般方式（TEAPスコア利用方式）では志願者が101%、共通テスト方式では同114%となった。共通テスト方式の中でも、「共通テスト併用方式」に比べ、「共通テスト利用方式（3教科型・4教科型）」の志願者の増加幅が大きくなった。

学部別の状況をみると、外国語学部（前年比140%）、文学部（同120%）、法学部（同116%）などで志願者の増加が続く。一方で、総合人間科学部（前年比95%）、理工学部

＜図表3-③＞ 上智大 学部別志願状況（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)

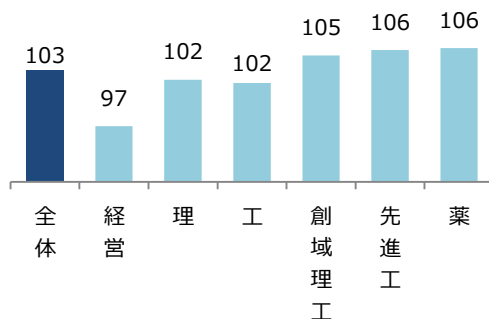
（同94%）で志願者が減少した。なお、文学部と総合人間科学部の「共通テスト併用方式」は今春、大学独自試験の日程を2日間に分割した。これにより併願の選択肢が広がるが、総合人間科学部では志願者増につながらなかった。

④東京理科大

理学部（第二部）を除く大学全体の志願者数は、51,021人（前年比103%）と増加した。方式別では、共通テスト方式で前年比107%と増加率の高さが目立っており、とくにC方式（共通テスト併用・事後出願）で志願者が増加した。C方式で利用する共通テストの教科は英語・国語の2教科のみであり、国語で平均点が大きく上がったことで出願がしやすかったことに加え、前年度入試で志願者が減少した反動などが志願者増の要因だろう。

学部別の動向をみると、経営学部を除き志願者が増加した。名称変更して2年目を迎えた創域理工学部の志願者数は前年比105%と増加した。志願者数が多い一般方式「B方式」の志願者数は前年並みだったものの、共通テスト方式やその他の一般方式で志願者を増やした。薬学部では志願者数が前年比106%と増加した。2025年度には現在の野田キャンパス（千葉県野田市）から葛飾キャンパス（東京都葛飾区）への移転が予定されていることも志願者増の一因とみる。

＜図表3-④＞ 東京理科大 学部別志願状況（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)

※2/16判明分で、理学部（第二部）の数値は除いて比較

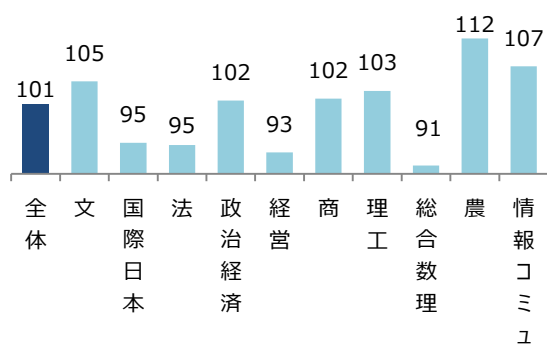
MARCHの志願状況

①明治大

出願締切前の共通テスト後期を除く大学全体の志願者数は、108,652人（前年比101%）と概ね前年並みの志願者数となった。前年度入試では志願者が増加しており、人気を維持しているといえる。方式別では、一般方式で前年比100%、共通テスト方式で同103%と共通テスト方式で志願者が増加した。

学部別にみると、農学部（前年比112%）、情報コミュニケーション学部（同107%）、文学部（同105%）などで志願者が増加した一方、総合数理学部（前年比91%）、経営学部（同93%）、国際日本学部（同95%）、法学部（同95%）で減少した。志願者が減少した学部のうち、国際日本学部は前年に続き志願者減となった。また、法学部では今春、「学部別入試」の募集人員を減員し、「指定校推薦入試」を増員する。法学部の「学部別入試」の志願者数は減少したが、他の一般方式も志願者が減少しており、募集人員減の影響は限定的であった。

<図表 4 - ①> 明治大 学部別志願状況（前年比）



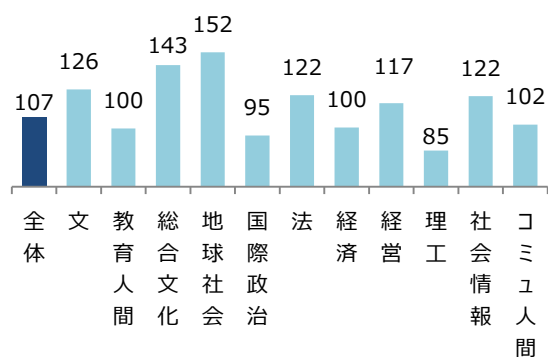
※数値は志願者前年比 (%)
※2/16判明分で、共通テスト後期の数値は除いて比較

②青山学院大

学部全体の志願者数は、47,109人（前年比107%）と増加した。前年入試では志願者が1割近く減少しており、その反動によるものとみる。方式別では、一般方式の志願者は前年比115%と大幅に増加した一方、共通テスト方式は同100%と前年並みにとどまった。

学部別にみると、ほとんどの学部で志願者が増加した。とくに前年度入試で志願者が2割以上減少した文学部（前年比126%）をはじめ、総合文化政策学部（同143%）、地球社会共生学部（同152%）では反動により大幅に志願者が増加した。一方、国際政治経済（前年比95%）、理工（同85%）の2学部では志願者が減少した。理工学部では今春より、「個別学部日程B方式」で共通テストが不要となり、大学個別試験のみで合否判定を行う。同方式では前年並みの志願者を集めたものの、その他の方式では志願者が減少した。

<図表 4 - ②> 青山学院大 学部別志願状況（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)

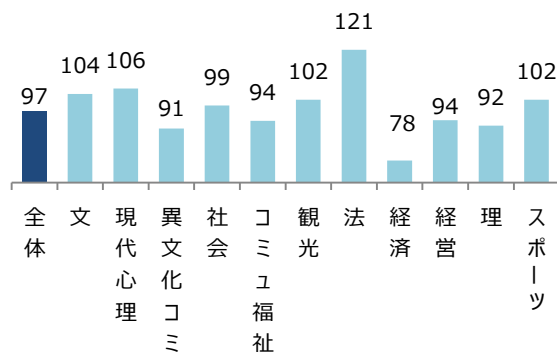
③立教大

大学全体の志願者数は、56,495人（前年比97%）と3年連続で志願者が減少した。方式別では、前年度入試で志願者が1割以上減少した一般方式では前年比99%と志願者数の回復にはならなかった。同大の一般方式は大学独自の英語の試験を出題せず、英語資格・検定試験の成績が共通テスト「英語」の成績を利用している。私立大専願者の共通テスト離れも要因の一つかもしれない。共通テスト方式は前年比95%と減少、

「MARCH」グループの他大の志願者数が前年並みから増加となったなか、対照的な動向となった。

学部別にみると、文学部（前年比104%）、現代心理学部（同106%）、法学部（同121%）などで志願者が増加した。とくに法学部は前年度、半数近く志願者が減少しており、その反動とみる。このほかの学部では、今春より入学定員を増員する異文化コミュニケーション学部では志願者が前年比91%と1割近く減少した。また、新設2年目のスポーツウェルネス学部は前年比102%と人気は堅調だ。

<図表 4 - ③> 立教大 学部別志願状況（前年比）



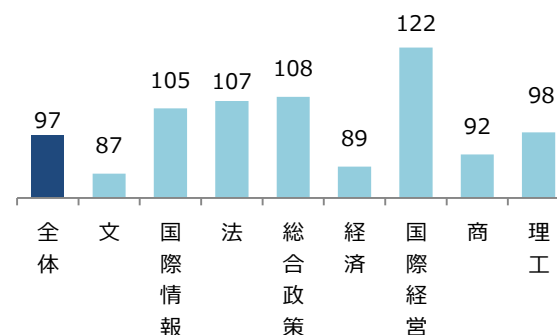
※数値は志願者前年比 (%)

④中央大

出願締切前の共通テスト後期を除く志願者数は、65,046人（前年比97%）となった。方式別でみると、一般方式の志願者数が前年比94%と減少した。前年度入試では志願者が増加しており、その反動とみる。一方、共通テスト方式は前年比106%と増加した。同方式の中でも、出願締切日が共通テスト試験日より前に設定されている「単独方式」（法 - 5教科型は除く）では前年に続き志願者が増加した。

学部別の志願者数をみると、例年多くの志願者数を集める文学部（前年比87%）、経済学部（同89%）などで減少が目立った一方、国際経営学部（同122%）、総合政策学部（前年比108%）、法学部（同107%）などでは志願者が増加した。法学部は2023年度より、23区内にある茗荷谷キャンパスに移転しており、人気が続いているとみる。

<図表 4 - ④> 中央大 学部別志願状況（前年比）



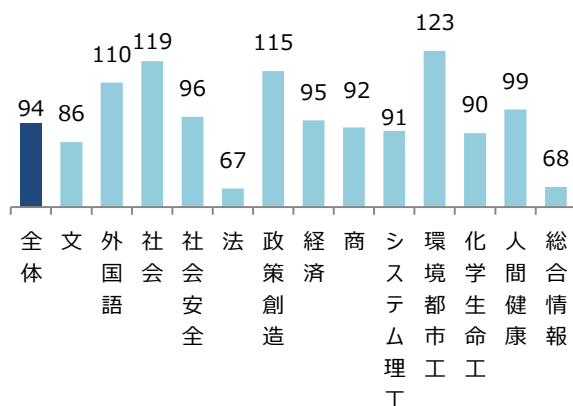
※数値は志願者前年比 (%)
※2/16判明分で、共通テスト後期の数値は除いて比較

⑤法政大

大学全体の志願者数は、102,162人（前年比103%）と増加した。青山学院大と同様、前年入試の反動により志願者数が増加した。方式別にみると、一般方式（前年比102%）、共通テスト方式（同105%）となった。

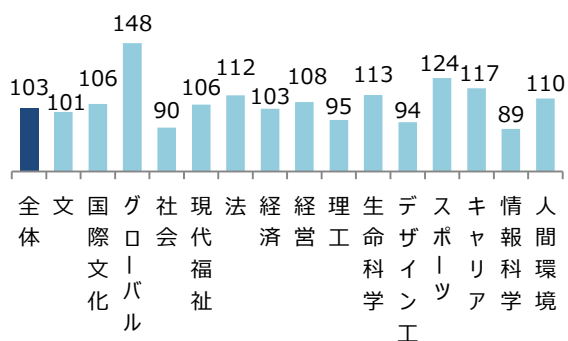
学部別にみると、文学部では前年比101%で今春は僅かな増加ではあるが、3年連続で志願者増となった。増加の中心は共通テスト3教科で合否判定する「B方式」であり、5教科で判定する「C方式」や一般方式では志願者が減少した。志願者が増加した学部が多くみられるなか、理工学部（前年比95%）、デザイン工学部（同94%）、情報科学部（同89%）といった理系学部は志願者の減少が続く。これらの学部の共通テスト方式は文学部とは異なり「C方式」で志願者が増加したものの、その他の方式で志願者増に至らなかった。なかでも情報科学部は前年度入試でも1割近く志願者が減少していた。

<図表5-①> 関西大 学部別志願状況（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)
※2/16判明分で、後期入試の数値は除いて比較

<図表4-⑤> 法政大 学部別志願状況（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)

関関同立の志願状況

①関西大

出願締切前の後期入試を除く大学全体の志願者数は、71,458人（前年比94%）となった。「関関同立」グループの中では唯一志願者が減少した。方式別でみると、一般方式で前年比94%、共通テスト方式は同92%となった。同大では一部の方式で地方試験会場を拡大していたものの、志願者増にはつながらなかった。

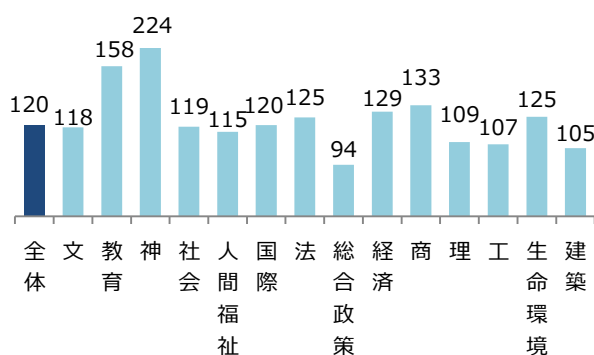
学部別にみると、法学部の志願者数が前年比67%と大きく減少、とくに一般方式で志願者の減少が目立った。法学部は前年度入試で合格者数を大幅に減らし、実質倍率（受験者数÷合格者数）が3.7倍から6.2倍にまで上昇した。難化を警戒した受験生が出願を避けたものとみる。総合情報学部（前年比68%）も、前年度入試の倍率上昇や志願者増が敬遠要因となった。一方、環境都市工学部（前年比123%）や社会学部（同119%）などは志願者が増加した。とくに環境都市工学部では共通テスト利用方式で志願者が大幅に増加したが、同方式は今春より既存の1方式を廃止し、新たに3方式を導入したことで出願数を増やした。

②関西学院大

出願締切前の共通テスト3月出願を除く大学全体の志願者数は、大学全体で51,097人（前年比120%）と大きく増加した。近年、入試方式の拡大により志願者の増加が続いているが、それに伴い合格者数も増加、受験生が警戒せずに出願したものとする。方式別にみると、一般方式では前年比116%、共通テスト方式では同129%となった。

学部別にみると、総合政策学部を除き志願者が増加した。とくに文系学部を中心に志願者の増加が目立つ。同大の一般方式ではこれまで、理系の一部方式を除き、同一日に出願できる試験の型・方式は1つのみに限られ、併願ができなかった。しかし、今春より文系学部を含む全学部で「併願減額制度」を導入、一部の入試方式同士であれば併願が可能になり、併願時の検定料も減額された。さらに今春より文系学部の「学部個別日程」では傾斜配点型、均等配点型の2方式で実施しており、受験生にとって出願、併願しやすい環境が整っていた。文系学部のなかでも教育学部（前年比158%）、商学部（同133%）、経済学部（同129%）で高い増加率となった。

<図表5-②> 関西学院大 学部別志願状況（前年比）



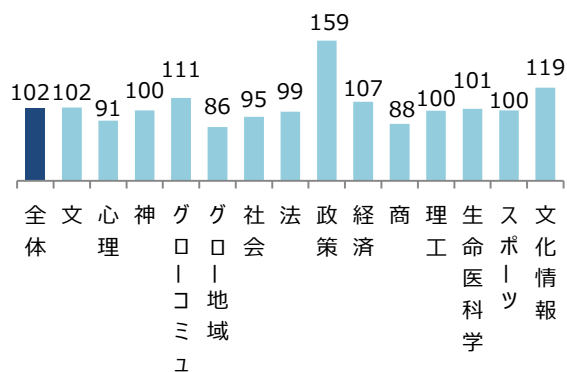
※数値は志願者前年比 (%)
※2/16判明分で、共通テスト3月出願の数値は除いて比較

③同志社大

大学全体の志願者数は50,974人（前年比102%）となった。方式別にみると、一般方式（前年比101%）、共通テスト方式（同104%）となった。

学部別では、法学部、理工学部、生命医科学部など前年並みとなった。特徴のある動きをしている学部をみると、近年不人気が続いていた政策学部の志願者数が前年比159%と大きく増加した。グローバル地域文化学部や商学部などでは前年度入試で志願者が増加した反動もあり、志願者が減少した。一方、文化情報学部では前年度入試で志願者が大幅に増加したが、今春の志願者数も前年比119%と人気の高まりは続いている。

<図表5-③>同志社大 学部別志願状況（前年比）



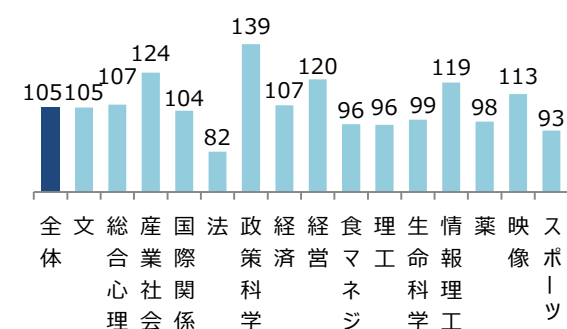
※数値は志願者前年比 (%)

④立命館大

出願締切前の後期入試を除く大学全体の志願者数は、87,324人（前年比105%）と増加した。方式別でみると、一般方式では前年比104%、共通テスト方式では同108%となった。

学部別にみると、産業社会学部では前年度入試の反動により志願者数が前年比124%と大きく増加した。このほか、経営学部（前年比120%）、情報理工学部（同119%）、映像学部（同113%）などで志願者が増加した。このうち情報理工学部と映像学部は今春、大阪いばらきキャンパス（大阪府茨木市）に移転する。キャンパス移転が志願者増加をもたらした。一方、法学部（前年比82%）やスポーツ健康科学部（同93%）などでは志願者が減少した。多くは前年度入試で志願者が増加した反動による影響が大きい。薬学部は前年に続き減少した。

<図表5-④>立命館大 学部別志願状況（前年比）



※数値は志願者前年比 (%)
※2/16判明分で、後期入試の数値は除いて比較

【参考】主要私立大 大学別志願状況

大学	方式	志願者数					
		23年度	24年度	前年比	23年度	24年度	前年比
北海学園	一般	4,286	4,246	99%	6,354	6,370	100%
	共テ	2,068	2,124	103%			
東北学院	一般	8,410	8,131	97%	11,754	11,348	97%
	共テ	3,344	3,217	96%			
千葉工業	一般	35,392	33,869	96%	104,967	108,766	104%
	共テ	69,575	74,897	108%			
青山学院	一般	21,850	25,068	115%	43,948	47,109	107%
	共テ	22,098	22,041	100%			
学習院	一般	14,637	16,183	111%	18,094	20,245	112%
	共テ	3,457	4,062	118%			
学習院女子	一般	1,092	1,772	162%	1,092	1,772	162%
	共テ	1,092	1,772	162%			
北里	一般	8,915	8,577	96%	11,721	11,370	97%
	共テ	2,806	2,793	100%			
慶應義塾	一般	37,411	37,600	101%	37,411	37,600	101%
	共テ	9,985	9,036	90%			
工学院	一般	9,075	7,973	88%	19,060	17,009	89%
	共テ	9,075	7,973	88%			
國學院	一般	13,043	13,540	104%	18,054	18,176	101%
	共テ	5,011	4,636	93%			
国際基督教	一般	927	936	101%	927	936	101%
	共テ	927	936	101%			
駒澤	一般	18,194	18,809	103%	29,092	29,686	102%
	共テ	10,898	10,877	100%			
芝浦工業	一般	19,612	20,589	105%	33,787	31,958	95%
	共テ	14,175	11,369	80%			
上智	一般	4,915	4,966	101%	26,552	29,569	111%
	共テ	21,637	24,603	114%			
成蹊	一般	11,543	12,692	110%	18,445	21,481	116%
	共テ	6,902	8,789	127%			
成城	一般	8,877	9,370	106%	14,053	16,170	115%
	共テ	5,176	6,800	131%			
専修	一般	27,531	30,468	111%	42,615	47,305	111%
	共テ	15,084	16,837	112%			
中央	一般	47,577	44,711	94%	66,757	65,046	97%
	共テ	19,180	20,335	106%			
津田塾	一般	1,575	1,361	86%	3,510	3,682	105%
	共テ	1,935	2,321	120%			
東海	一般	24,939	21,390	86%	37,091	34,096	92%
	共テ	12,152	12,706	105%			
東京女子	一般	4,109	4,029	98%	7,030	6,876	98%
	共テ	2,921	2,847	97%			
東京電機	一般	19,851	21,146	107%	27,414	29,647	108%
	共テ	7,563	8,501	112%			
東京都市	一般	9,985	11,195	112%	19,492	20,903	107%
	共テ	9,507	9,708	102%			
東京農業	一般	12,260	12,734	104%	19,025	18,951	100%
	共テ	6,765	6,217	92%			
東京理科	一般	33,831	34,401	102%	49,428	51,021	103%
	共テ	15,597	16,620	107%			
東洋	一般	41,083	46,964	114%	75,183	89,103	119%
	共テ	34,100	42,139	124%			
日本	一般	62,351	48,821	78%	85,648	63,946	75%
	共テ	23,297	15,125	65%			
日本女子	一般	5,783	5,145	89%	9,326	7,921	85%
	共テ	3,543	2,776	78%			
法政	一般	68,962	70,660	102%	99,051	102,162	103%
	共テ	30,089	31,502	105%			
武蔵	一般	12,055	14,328	119%	15,584	18,018	116%
	共テ	3,529	3,690	105%			
明治	一般	80,258	80,589	100%	107,519	108,652	101%
	共テ	27,261	28,063	103%			
明治学院	一般	14,789	15,839	107%	22,631	22,436	99%
	共テ	7,842	6,597	84%			
立教	一般	34,642	34,224	99%	58,208	56,495	97%
	共テ	23,566	22,271	95%			
早稲田	一般	74,545	72,815	98%	90,879	89,420	98%
	共テ	16,334	16,605	102%			
神奈川	一般	22,264	21,773	98%	30,688	30,308	99%
	共テ	8,424	8,535	101%			
愛知	一般	11,893	12,308	103%	17,210	17,928	104%
	共テ	5,317	5,620	106%			
南山	一般	14,643	13,948	95%	21,931	21,471	98%
	共テ	7,288	7,523	103%			
名城	一般	22,302	27,305	122%	37,996	42,113	111%
	共テ	15,694	14,808	94%			
京都産業	一般	23,593	20,185	86%	36,235	28,851	80%
	共テ	12,642	8,666	69%			
同志社	一般	40,157	40,731	101%	49,972	50,974	102%
	共テ	9,815	10,243	104%			
立命館	一般	52,454	54,420	104%	82,799	87,324	105%
	共テ	30,345	32,904	108%			
龍谷	一般	38,168	36,860	97%	56,498	56,008	99%
	共テ	18,330	19,148	104%			
関西	一般	55,237	52,098	94%	76,330	71,458	94%
	共テ	21,093	19,360	92%			
近畿	一般	99,674	97,988	98%	135,025	133,796	99%
	共テ	35,351	35,808	101%			
関西学院	一般	28,723	33,197	116%	42,595	51,097	120%
	共テ	13,872	17,900	129%			
甲南	一般	11,382	12,879	113%	16,049	17,746	111%
	共テ	4,667	4,867	104%			
西南学院	一般	13,510	13,276	98%	19,168	18,996	99%
	共テ	5,658	5,720	101%			
福岡	一般	27,912	28,001	100%	40,845	41,120	101%
	共テ	12,933	13,119	101%			

※数値は2/16現在、出願期間中の方式および志願者数未公表の方式は集計対象外